



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊鏡二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

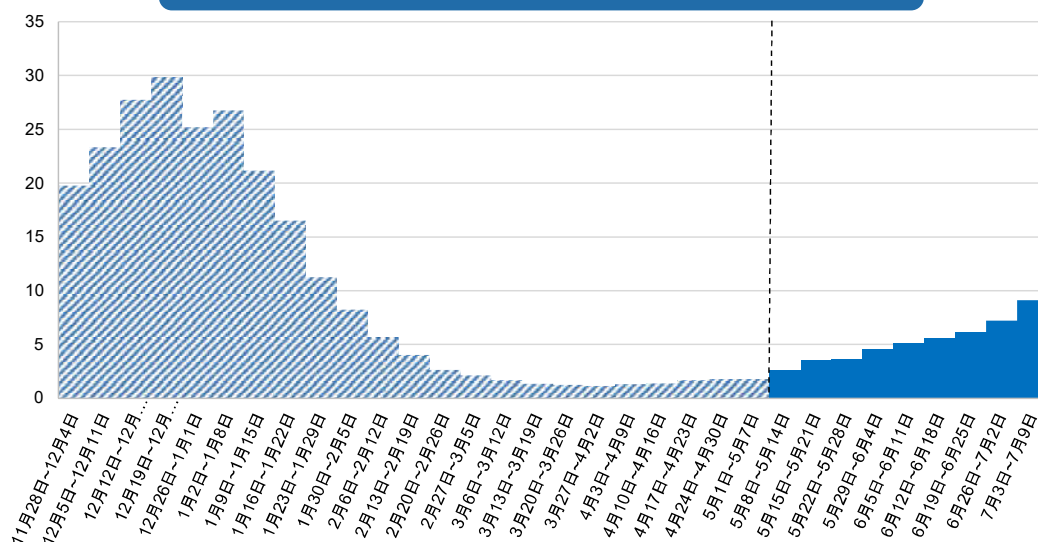
大分県立病院ウェブサイトはこちら

呼吸器内科

制限が緩和された 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とは、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症です。2019年12月に中国で初めて報告され、全世界的な流行を見せています。当初は重症肺炎を発症し多くの方が死亡しましたが、ワクチンの普及に伴い重症患者が減りました。ウイルスの変異に伴い流行を繰り返しましたが、感染者数の減少に伴い、令和5年5月8日以降、2類から季節型インフルエンザと同等の5類感染症に移行し、陽性患者の行動制限が緩和されました。具体的には、発症から5日間経過し、かつ、症状軽快から24時間経過するまで外出を控えることが推奨され、濃厚接触者の行動制限は不要となりました。一方、5類に移行してからは、コロナ患者数は緩徐に増え、第9波の兆しがみられます(図)。発熱時や風邪症状がある場合には、かかりつけ医に相談してください。対応できない場合には、身近な医療機関(外来対応医療機関(診療・検査医療機関))として、560以上の登録病院があります。大分県のホームページで検索可能です。インターネットで検索できない方は、コロナ発熱・受診相談ダイヤル(097-573-3015)がありますのでご相談ください。

新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数(全国)推移



※5月7日以前の数値は、HER-SYSデータに基づく定点医療機関からの患者数(参考値)
一部の都道府県については、都道府県の集計に基づく。

出典:厚生労働省ホームページ<https://www.mhlw.go.jp/content/001120797.pdf>

(呼吸器内科 部長 安東 優)



病院で採血する際に、様々な種類の試験管(採血管)を見かけることと思います。長いもの、短いもの、キャップが紫だったり、黒だったり、と多種多様です。採血管には検査の目的に応じた試薬をあらかじめ加えるので、検査項目が多くなると、複数の採血管を組み合わせで使用することになります。当院の代表的な採血管をキャップの色でご紹介します。

紫の採血管

白血球の数や赤血球の数、濃さなどを調べます。細胞の数を数えるために、血液が固まらないような試薬(抗凝固剤)を内面に塗布してあります。

灰色の採血管

血糖とHbA1cの測定に使います。採血してから測定するまでの間に、血糖は少しずつ低下していきます。これは生きている血球が血糖を消費するためです。この血糖低下を防ぐための粉状の試薬を採血管の中に入れてあります。

青色の採血管

血液は細胞成分である血球と液体成分である血漿に分けられます。肝機能や腎機能、コレステロール、尿酸などの多くの検査項目は、この液体成分を使って測定します。そのためには、まず血液を凝固させ、塊になった血球を除去する必要があります。採血して30分間ほど経てば自然と凝固しますが、検査結果を1分でも早く出すために、凝固促進剤を内面に塗布したものを使っています。

1本の採血管ですべての検査ができるといいのですが、どうしてもたくさんの種類の採血管を使い分けることになり、本数も多くなってしまいます。キャップの色はスタッフが容易に見分けられたために付けられていますが、同じ採血管でも病院によって色が異なることがあります。

(臨床検査科検査研究部 部長 加島 健司)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら